

飯塚市庄内生活体験学校

原 和 也*

皆さん、おはようございます。私は福岡県飯塚市という所から本日まいりました、飯塚市庄内生活体験学校で次長をしている、原と申します。よろしくお願いします。

まず飯塚市庄内生活体験学校が実際に行っている事業の内容、また沿革などの概要も説明させていただいて、その中で地域実習について、今年度では11月の後半から受け入れをするようにしているのですが、そこでどのようなことをするかを少しお話しできたらと思います。まず飯塚市庄内生活体験学校で活動する上で、生活体験活動というのを行っております。この生活体験活動とは何かということを少しお話しします。

まず1点目は食材として消費する野菜の栽培を中心とする生産活動を行っております。特に私どもの、よく「生活体験学校」と言っているんですが、その生活体験学校ではまず小学生と幼児を対象にした授業を行っております。その中で、食材を全て買ってくるのではなくて、野菜などを種から育てて、育苗をして、それを実際の食事に使うという活動を行っています。

2点目に、まず炊飯を中心とした自炊。例えばまきを燃料として風呂を沸かすという活動を行いながら、またお風呂の入るときに入り方。また洗濯機を使って洗濯をして、洗濯を干して畳む。そして自分の荷物に直すという、要するに一般的な衣食住の活動を行っております。

3点目に、断片的体験をなくして、まるごと体験をしていく活動を行っています。ただし、あとで授業内容も説明いたしますけれども、

このまるごと体験は、例えば野菜栽培にしますと、苗を育てて、それを植えて、手入れをして収穫するっていうのは1年、ないし3カ月、4カ月かかる活動になります。

例えばサツマイモを掘ろうと、収穫する活動をする場合は、収穫する体験はできますけれども、どのようにサツマイモが育てられて、手入れをされてというのをきちんと動画などで説明をして、理解した上で収穫をするような活動を現在行っております。

そこで飯塚市庄内生活体験学校って、歴史がございます。その沿革を少しお話ししたいと思います。飯塚市と先ほどお話ししましたが、飯塚市は今、1市4町が合併して今の飯塚市になっております。以前は庄内町という町に青少年の教育キャンプ場を開設いたしました。お聞きになった方もいらっしゃると思うんですけど、「通学合宿」と言いまして、6泊7日、1週間泊まって、生活をして学校に通うという。通学合宿を提唱した、正平辰男先生なんですけれども、その先生が中心となりまして、青少年の教育キャンプ場を開設いたしました。そのキャンプ場に泊まって、実際に長期の6泊7日、または9泊10日の長期の通学キャンプを実施しております。それが1983年に実施してありまして、私はその頃に生まれました。

実際に、今はきれいな建物になっているんですけども、手づくりの小屋です。例えば、ジャガイモしか食材を渡さずに、それをどのように子どもが調理をするのか。または落ち葉の中に寝かせて、そのあと、次の日に学校に行くとか、そういうルールも。本当に、キャンプ場で暮らすような通学キャンプを行ってありました。

*飯塚市庄内生活体験学校 次長

そのあと、1988年に現在の場所に小規模の通学合宿ができるように管理棟をつくられました。そのあと、平成元年に現在の庄内町立生活体験学校の生活棟、作業棟を竣工し、6泊7日の通学合宿を年間20回実施するようになりました。

また2006年、平成18年に市町村合併を行いまして、嘉穂郡の4町と飯塚市になっております。そのあと、2015年、平成27年度。このNPO法人体験教育研究会ドングリ（以下NPOドングリ）が今、指定管理者制度を使い、私どもの法人が運営をしております。このNPOドングリはあの正平辰男先生が理事長をされています。最後に2017年に幼児の体験活動の支援を開始しております。

次に、庄内町の時代から現在に至るまでの四つの変革をお話したいと思います。先ほどもお話ししましたが、通学キャンプから通学合宿への転換を行っています。皆さんから見て左側、これが通学キャンプ場の青少年キャンプ場です。ここで通学合宿を行ってございました。その後、1993年に皆さんから見て右側の、庄内町立生活体験学校を町の予算で建てていただいて、実際にここで現在、通学合宿を行っております。通学キャンプから通学合宿へ転換したきっかけともなったものです。

次に、嘉穂郡4町から飯塚市との合併です。以前は合併する前、庄内小学校という小学校1校でしたが、合併後に各飯塚、穂波、筑穂、穎田、庄内が合併をいたしまして、対象の学校が1校から20校に増えたことによって、通学合宿、年間20回できていたものが、合併後は年間大体4回に減少してます。その代わり、飯塚市、他の19校の子どもたちを対象にした授業も、飯塚市になって行くようになっております。

次に変革の三つ目ですが、NPOドングリが指定管理者となって運営する生活体験学校に今はなっております。庄内町の時代は26年間、町が生活体験学校の運営をしていました。飯塚市になりまして、11年間運営をし、現在はNPOドン

グリが指定管理者となって運営をしています。

四つ目です。以前は小学生を対象にした授業のみを行ってございました。しかし、庄内生活体験学校の平日の利用に関する課題、小学生を対象にした授業ですので、土日を中心とした授業になっております。そのため、平日はどれも利用しないという課題がありました。また、認定子ども園とか幼稚園などの体験活動をしたいたけれども、園ではできない、園の職員だけではできない。また場所がないという課題がマッチしまして、幼児の生活体験活動に取り組み始めたのが平成29年、2017年以降になります。

まず幼児の活動の参加が増えた理由は、先ほど言いましたように幼稚園での体験活動を行いたい、というニーズがあったからです。また幼稚園にはバスがありますが、保育園や保育所にはバスがありませんので、それを飯塚市よりバスの予算措置をしていただき、このバスの予算でバスが来られるようになったのが活動の参加が増えた理由になります。少し時間がありますので、関連施設は後ほどお話したいと思います。

次に、事業の概要について少し説明したいと思います。生活体験学校では、幼児の野外生活体験活動事業、主に幼児とその保育者を対象にした事業。また、二つ目に体験合宿事業。小学生を対象にした事業を行っております。

まず、幼児の野外における生活体験活動支援に関する事業についてお話をしたいと思います。対象は飯塚市内の幼児と保育者です。事業の目的としまして、農業体験、または動物の触れ合い、生活体験学校にやぎとうさぎがいますので、そういう動物の触れ合いなどの活動を通して、例えば、保育、幼児教育における「10の姿」を実現するためです。例えば、自立心や共同性、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わりなどを実現するためにこの事業を行っております。

二つ目は、保育者自身の若年化によって、なかなか生活体験の活動が不足していることがあ

ります。例えば、サツマイモの収穫などを行っているんですけども、その収穫をするにあたって、まずサツマイモをどうやって掘るのか、サツマイモにツルがあることすら知らない先生もいます。そういう先生たちを対象に何か事業ができないかと思い、幼児の活動を通じて、体験活動不足を補うことを目的にしております。

その中で、まず施設を利用した活動として、農業体験や動物の触れ合いなど、園ではできない活動を行っています。その際に必ず行っているのが、どのように園児に教えたらいいいのか分からない先生たちのために、事前の打ち合わせを必ず行い、サツマイモ・ジャガイモなどをまずはどうやって収穫をするのか、事前の演習を行っていただきます。演習を行っていただいて、先生たちが十分理解した上で、幼児の前に立って指導できるように心がけております。

主な活動は、サツマイモの収穫、ジャガイモの収穫、動物の触れ合い。それと昔は神社とか、よく公園とか落ち葉がたまっていて、その中で遊んだ記憶が自分はあるのですが、なかなか最近は園でも木を植えていなかったり、落ち葉がなかったり、公園になかなか行かない。そうした園児のために、園の先生から「落ち葉プールというのをしてみたい」という要望がありまして、落ち葉を小学生の活動で集めてそれをブルーシート広げ、写真のように自由に遊ぶような落ち葉プールを行いました。あとは「里芋洗い」と言いまして、里芋をみんなで掘って、クロスした棒を使って里芋の少し茶色い皮をむくという活動です。今はきれいな里芋しか売られていませんが、この園児が持ってる棒でゴシゴシ洗という体験を、子どもたちに提供しています。

畑で野菜を作るとかお米を作るとか、私は実家が兼業農家なので、そういう体験は十分、3歳くらい、生まれた頃からずっと行っていますので知っているのですが、なかなか里芋をこうやって洗うんですね。落花生が木になっていると思っている先生もいらっしゃいます。落花生

は土の中になるものなのですが、そうしたことを知らない先生がいっぱい。知らないことが悪いのではなくて、そうしたことを知っていただくように心がける活動にもなっています。

また幼児にも、土に触ったり、動物に触ったり、広場に寝転がったり、汚れる体験を実施しています。「汚れたら汚いよ」ではなくて、土に触れて、泥んこになって遊ぶ体験を実際にここで行っています。

次に園庭での活動支援を紹介します。幼稚園や保育園の園庭で活動できるものはこちらから出向いて支援を行っています。例えば今、皆さんから見て左下に、石焼き芋体験の写真があります。これはドラム缶で石焼き芋を作ってる写真です。基本的にこうした道具は売っていません。この道具は私どもの法人で製作をして、それを園に持って行って、石焼き芋を実際に行っています。以前はこの石焼き芋の体験も、法人の職員みんなで園まで赴いて実施していたのですが、最近では園の先生たちが自分たちで焼けるようにまできました。ただし、このドラム缶は軽トラックがないと運搬できませんので、運搬のみこちらの職員で行っています。

また生活体験学校で活動をしていく中で、最近畑を借りて野菜を作る活動を行うようになった園も何か所かあります。そのため、うちでは種をまいて野菜の苗を育苗しているので、野菜の苗を園へ提供し、例えばどのように肥料をやればいいのか、育てたらいいのか、手入れをしたらいいのか、という相談を受けながら、実際に苗を育てて、それを収穫して、園の給食で食べるという活動をしていただいています。

また、この一番右の写真にあるそうめん流しは、ヒノキの板を使って作成したものです。コロナになり、最近なかなか流しそうめんは行われていないのですが。コロナ前は園にそうめん台を持って行き、このように水着を着て行っている園も多数ありました。

そこで幼児の活動の二つ目、これは保育者体験講座といいまして、飯塚市の保育者を対象に

した事業です。保育者の子どもさんも連れてきていいですよ、というようにしております。昨年度の実績を申し上げますと、昨年度はサツマイモの収穫について学びました。6月、10月、12月にそれぞれ1回ずつサツマイモ栽培について学んでいます。この保育者体験講座は先ほど言いましたように、経験がない、そういう先生を対象に実際に体験をし、それを理解してもらって、園の保育や幼児教育に活用してもらおうと思います、始めた事業になります。

6月には苗の植え付けを行っています。私はどのように苗を植えたらいいか、生育過程を説明しています。例えばサツマイモの苗を、船底に植えるか、垂直に真っすぐに植えるか。その植え方によって、どのように違いが出るかというのを、昨年度は実験的にを行っています。また、サツマイモの栽培方法をイラストにして、イラストを園で活用できるようにしてもらっています。

次に10月です。10月にはサツマイモの収穫を行いました。横に植えたのと縦に植えたのとでどう違うかというのを実際に体験し、園でも植えるときにそのようにして実験的に行うという園も近頃は増えてきています。またこの10月という時期はキャベツの苗を植える時期でもありますので、キャベツの苗を植えるという体験も行ってもらっています。

12月には収穫したサツマイモを使つての石焼き芋体験です。10月に収穫したイモを2カ月間保存しました。保存することで甘みが増して、とてもおいしいサツマイモになるんです。そのサツマイモを使って、石焼き芋の作り方を実際に体験してもらっています。焼くのに2時間ぐらいかかりますので、交代しながら、その間サツマイモの栽培についての教材作りを各グループに分かれて行ってもらいます。その際に、3歳児、4歳児、5歳児でクラスが分かれておりますので、そのクラスごとに教材を作って、実際にどのような教材ができたか発表してもらいます。

次に、一番メインで行っている体験合宿事業についてです。これは、飯塚市内の小学生を対象にしております。基本的な生活技術を身に付けようというのが目的の一つです。また、自立心や主体性、協調性など、社会を生き抜く力として必要となる基礎的な能力を1日、ないし1泊2日、6泊7日で養おう、というのを目的にしております。

まず1年生の生活塾についてです。これは1日、朝9時半に来て、14時半に終わる事業になります。主に、ここではサツマイモの収穫など農業体験や、おにぎり作りなどの調理体験を行っています。また、雑巾の絞り方を知らない子もいますので、絞り方を教えてきれいにすることもあります。

次に小学校2年生、3年生を対象にした生活塾という事業です。これは、主に1年生と一緒になのですが、違いは食事作りやご飯炊き、風呂沸かしや動物の小屋掃除なども行っています。係については、後から説明します。

次に、1泊2日の生活体験合宿です。これは、小学校4年生か6年生を対象にしたものです。夏は生活体験学校、山の上にはございませんので、外にテントを張りますと、ものすごく暑くて寝れません。なので、本来は外に建てるべきだと思うんですけども、生活棟という棟の中、エアコンを効かせた部屋でテントを建てて、その中で一張り4人ずつで寝させています。また、冬は生活棟の中で寝泊まりをして、布団の敷き方、シーツの畳み方なども教えています。各係に分かれて生活に必要な活動を分担して行い、最終ではグループに分かれてカレー作りと、実際にはメスティンという道具を使って、ご飯炊きを行っています。

次に一番メインで行っている通学合宿、6泊7日の授業です。この11月下旬に地域実習に学生さんが来られるんですけども、実際にこの通学合宿を、11月26日から12月2日まで行います。子どもが泊まっている部屋に寝ていただいて、一緒に起きて、一緒に係活動をして、一緒

に学校まで歩いて生活するということを体験してもらおうようにしております。

まず通学合宿とは、名前のとおり通学しながら合宿をします。学校までは片道およそ2キロあり、それを5日間歩いて通学しています。また生活に必要な活動を係ごとに分担し、朝は6時、夜は21時に就寝というルールがあるので、この生活リズムを整えることができます。よく保護者の方にお聞きすると、朝、車で送り迎えをしているので7時半に起きますとか、例えば朝ごはんを食べません、と。夜も12時に寝ますとか、1時に寝ますとか、そういうご家庭が結構いらっしゃると思います。ここではそういう、普段生活しているリズムではなくて、この生活体験学校にいる間、6泊7日、1週間は6時に起きて21時に就寝するというルールをもう絶対にしてしています。また朝食を食べないということも絶対、それは駄目とルール化しているので、その中で生活リズムを整えるのも一つの目的になっています。また係活動で日曜日から火曜日までは法人の職員が指導をし、水曜日から金曜日までは職員がサポートに徹して、時間がかかってもいいので、自分で行うようにしています。

通学合宿の実践から導かれる実践目標について説明します。飯塚市に合併してから年齢ごとに応じた授業目標になりましたが、まず年齢において依存から自立、他立から自立へと段階を追って成長させることを目的にしています。また1日でも宿泊でも、その時間は家族と一緒にいない時間になります。特に6泊7日、1週間いない中で、家族との依存関係を断ち切って、一緒に宿泊して通学合宿をする仲間だけとしかいけませんので、その仲間と共同して、先ほど言いましたように規律正しい共同生活をさせること。または自他の環境を正しく認識して、例えばこの子は少し着替えたりするのに時間がかかるよね、でもそれはしょうがないよねと思ったり。

例えば、実際6年生でも通学合宿中に、泣

いて「帰りたい」と言う子はいます。逆に4年生でも全然、泣いて帰らない子もいます。なので、家に帰ってゲームをしたい、家に帰ってスマホを扱いたいなどというのも一つの苦しさだと思います。また、1週間、普段、おうちの人がやっていることを自分たちでしながら、通学して、また帰ってきて、食事を作ったりします。ものすごく大変です。水曜日以降は結構、小学生がバテています。その中でも、みんなで協力すればできるということを学んでももらったり、それを生き抜く力を、必要性を身に付けてほしいと思っています。

また4番目に、善悪を正しく判断できる力。これはいい、これは悪いということを正しく判断できる力の必要性を目標にしております。ちなみにこれは1年生から3年生までの小学生に、実際に採っているアンケート内容です。園で体験したことがあるもの、小学校に来る前に来たことがあるかどうか、ここの体験学校で何をしたか、といったアンケートをとっています。その中で幼児の野外体験活動の実施園から、実際に参加している子たちが178名、半数以上いることが分かりました。

また、これが学年ごとの男女比です。1年生は実際、300人ぐらいの申し込みがあります。ただし、1班15名の3班編成にしていますので、抽選により少ない人数です。逆に1年生で落ちた子たちが来たいと言って、2年生になると人数が増えてます。2年生に経験して、また楽しさ、面白さを感じた子が3年生でも来る、ということが分かります。ただし、児童の参加者の志望動機、どうして通学合宿に来たいのかを聞いたところ、自分から参加申し込みした子が多数いたことが、このアンケートで分かりました。

先ほど言いました、係活動について少し話をしたいと思います。1年生、2年生、3年生。1年生、2、3年生、4、5、6年生というふうに分けて授業を行っております。その際、野菜の収穫とか、農業体験は必ず行っていま

す。ただし、年齢ごとに応じてやれることを少し変えていきながら、上級生になったら少し難しいことにも挑戦しています。

また、それぞれおかず係は食事を作ったり、動物係というのは小屋の掃除をしたり、ご飯係は飯盒とかメスティンで火を使ってご飯を炊いたり。風呂係はまきでお風呂を沸かししたりする係。それぞれ生活する上で調理しないと食事が食べられません。この動物係は玄関や身の周りの掃除もします。掃除をしないと汚い場所で生活することになります。ご飯係もご飯を炊けないとみんなのご飯がありません。お風呂係もお風呂をまきでしか沸かせません。スイッチフォンはありませんので、まきで沸かさないとお風呂に入れません。お風呂に入れないということは汗をかいたままの体で寝ないといけません。そのお風呂も毎日変えるので掃除をしないと汚い状態で入らないといけなくなります。それを上級生が中心に行っています。

このようにさまざまな係を1人がすべて体験することはできませんが、部分的に調理や掃除などの体験活動を、1年生から段階を追って行っています。参加回数ごとで、一番右の子は1年生のときに1回、生活塾に4回、生活体験合宿に2回来た子があきらかに、体験の量、色々な係を経験して、その量が多いのが分かります。

このように何回も来る子もいます。特に通学合宿に関しては、庄内小学校の子しか来ません。また、4年生以上です。年間3回実施しています。その中で4年生から、3回来れることになります。6泊7日、自分たちで生活しないとダメです。となると6年生にもなれば、4年生、5年生の経験を生かして、例えば洗濯物を畳むとか、洗濯物を干すっていうのが手が空いている人がしょうよ、とか。例えば係ごとに分かれた係の活動をして、大変であれば、それを手伝うということ、6年生を中心に率先して声掛けをしている姿が、最近よく見られます。

このように小学生、幼児の活動を中心に行っている生活体験学校ですが、展望としては、今は幼稚園とかの利用促進はできつつあります。ただし、子育て支援センターや、例えば障害児の放課後デイサービスなど、そうしたところとの連携がまだ全くできていない現状があるので、そこでの連携を図ること。また幼児の生活体験活動、保育者にアンケートを採ったり、小学生との体験合宿事業の関連性をアンケートで調査したりして、授業内容の充実を図っていく。これが今の展望です。

課題としては、さまざまな活動をしていても、幼稚園は基本的にサツマイモの収穫がメインなのがちです。他の体験活動も推進しながら、さまざまな体験活動を経験できるように、園のほうに働いていかないといけないのかと思います。また、市内の小学校と連携した事業を実際は行っておりません。生活体験学校と小学校というのは、なかなか。私は個人的には小学校の先生からいろいろ頼まれてしていますが、生活体験学校としての支援というのは全くできていない状況にあります。畑を作っている学校もありますし、いろいろと授業の支援とかもできるのではないかと考えています。そうした部分に切り込んでいきながら、今後、授業の支援を行ったり、連携をしたりしていきたいと思っています。

また先ほどにも言いましたが、通学合宿はかつて年間20回行っていたところ、年間3回に減ってしまったのですが。飯塚市内で今後、各12交流センターの中で通学合宿を実施しようという動きが出て来始めました。この交流センターとも一緒に連携しながら、今後、通学合宿を広げて、飯塚市内の小学生が通学合宿を体験できるような、経験できるようなものにしていきたいと思っています。

最後になりますが、少し駆け足で生活体験学校の概要を説明させていただきました。地域実習では、昨年度はコロナの関係で実施できませんでした。今回、11月に来られる学生から本格

的に通学合宿を体験してもらいます。子どもたちは結構、経験した子がたくさんいますので、実習中にもしかしたら「そうじゃない」「こうじゃない」と言われるかもしれません。ただ、子どもたちにとっても大学生と一緒に生活するという経験もなかなかありませんので、子どもたちにとっても良い経験なるのではないかと考えています。そこで子どもたちの力を少し、見てもらえたらなと思っております。以上、駆け足になりましたが、私のお話は終わりたいと思います。ありがとうございました。